

創生総合戦略 芦屋市行政評価委員会による外部評価結果

1 外部評価の実施について

(1) 委員会委員名簿

役 職	委 員 名	所 属
委員長	はやし まさ ひこ 林 昌 彦	兵庫県立大学大学院会計研究科 教授（研究科長）
副委員長	てら み よう こ 寺 見 陽 子	神戸松蔭女子学院大学教育学部教育学科 文学研究科・人間科学部子ども発達学科 教授
委員	かわ かみ てつ や 河 上 哲 也	三井住友銀行公共・金融法人部 部長
委員	き むら ゆう こ 木 村 祐 子	芦屋市商工会女性部 部長
委員	こう つき とし こ 上 月 敏 子	大阪体育大学教育学部 特任教授
委員	ごくらくじ あい こ 極楽地 愛 子	芦屋市PTA協議会 会長

(2) 委員会開催日程

回	日 程	内 容
第1回	令和元年7月23日（火）	委員委嘱，委員長及び副委員長選出 創生総合戦略に関する取組について
第2回	令和元年8月7日（水）	創生総合戦略に関する評価について

(3) 評価対象とした事業

別添「芦屋市創生総合戦略の事業実施内容について」のとおり。

2 外部評価結果について

(1) 総評

ここでの評価は、事業終了後に行う結果の判定ではなく、事業の改善に資する意見を述べることを目的としている。全体を通じて強調したいことは、次の点である。

ア 景観まちづくりのビジョン——点から線，そして面への展開——

景観まちづくりでは、点として存在する歴史文化資産や公共施設をつないで線とし、さらには面へと展開するとともに、市民や来訪者がその価値を理解し、生活の中で活用する環境を整えることが目標となろう。市民や来訪者がまち歩きを楽しみ、まちに賑わいを持たせるには、近景・中景・遠景それぞれに多種多様な構成要素を組み合わせる魅力ある景観をつくることに加えて、市民や来訪者の関心を引くテーマを設定し、ストーリー性のある情報を発信することを通じて、独自の価値を創出することが必要である。このとき市民、事業者等と行政との協働が必要であることは言うまでもないが、それには関係者の間で、どのような景観をつくるのかというビジョンの共有が欠かせない。このことは、屋外広告物条例の推進をはじめ、個別の事業に対する市民、事業者等の理解と協力を得るためにも必要であることを申し添えておく。

イ まちづくりを支える人づくり

市民、事業者等と行政との協働を推進するには、ビジョンや目標を共有し、活動を調整していくことが必要であるが、それは言うほど容易いことではない。市民、事業者等と行政の双方で、相互理解に基づいて相互に支援を引き出すことができる人材、そのようなリーダーの存在が欠かせない。「まちづくりは人づくり」と言われる所以である。この点で、「全世代の居場所づくり」事業の「こえる場！」に注目したい。これは、地域活動を行っている市民、事業者等と行政がつながり、様々なアイデアを実現していく取組である。現在、この取組は、課題解決型の横断的組織づくりや人材育成を重視する、行政改革の重要ポイントとして位置づけられている。それならば、イベント開催の実績のみならず、この取組から得られた経験やノウハウ、さらに意識改革といったところまで掘り下げて、人の成長という観点からも検証し、その結果を市民、事業者等と行政の双方で共有する必要がある。まず行政の側から率先して取り組んでほしい。

ウ 子育て支援と女性活躍推進による持続可能な地域づくり

子育て支援については、企業・NPO・高校・大学等の多様な主体との連携により「キッズスクエア事業」のプログラムを一層充実させたこと、「放課後児童健全育成（学童保育）事業」において待機児童の解消に向けて開所日数及び出席児童延べ数を増やしたこと、就学前児童の待機児童の解消に向けて入所定員を増やしたことが評価できる。しかし、今後も働く女性が増え、これらの事業に対するニーズが増えるとともに、質の充実も求められると考えられることから、とりわけ学童保育の事業委託や認定こども園への転換については検証を行い、質と量の両面から一層の改善に取り組む必要がある。

他方、女性活躍推進については、起業支援の「旧宮塚町住宅活用事業」が動き出すなど一定の進展が見られるが、より一層の推進を期待する。子育てと就業・起業の両面から、女性のみならず、男性を含むあらゆる個人を支援することは、持続可能な地域づくりにおいて最重要であるとの認識に立ち、引き続き努力を傾注していただきたい。

なお、働く女性はPTA活動等、学校運営に参加する機会が限られるといった問題がある。女性が多方面で活躍できる社会を実現するには、解決しなければならない多くの課題があり、市民の声を聴くことから政策形成へとつないでいくことを期待する。

(2) 事業評価

基本目標	<p>1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する</p> <p>恵まれた自然環境や交通の利便性などの立地条件に加え、本市の特徴であるまちなみを維持・保全し、更に清潔で美しく、安全なまちづくりを進めていくことで、今ある魅力を堅持しながら、住宅都市としての機能や付加価値を高め、本市の良さを引き続き継承します。</p>						
数値目標	項目	H26	H27	H28	H29	H30	目標 (R1)
	人口の社会増（人）	185	△309	△95	299	△4	3,200以上 (H27～R1)
	市民の定住意向（%）	84.7	-	-	83.9	-	90.0
外部評価意見	<p>(1) 良質な住まい・住環境の形成</p> <p>1 景観施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくり全体のビジョンを持ち、ビジョンに各施策を位置づけし、いかに市民に対してアピールし、共有するのが重要である。 ・ 公共サイン計画について、土地鑑のない市外からの訪問者にも分かりやすいものにすべきであり、一般によく利用される施設等についても表示するとより分かりやすい。 ・ 補助制度実施期間内に改修、撤去が困難な屋外広告物条例における不適合物件への対策を検討する必要がある。 ・ 無電柱化事業について、沿道住民等と丁寧に協議を行いながら、安全安心の面を重視して推進されたい。特に子どもの安全を重視していただきたい。 ・ 市が実施する工事に際しては、相談窓口の周知に努めてほしい。 ・ 歴史的な建造物が点から線、さらに面としてまちのデザインに繋げていけば、非常に価値がある。 ・ 景観重要建造物については、他の物件の指定も検討を進めていただきたい。 <p>2 住宅都市の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あしや市民活動センターでは、若い世代など多くの人の利用促進につながる改修であり、評価する。 ・ 宮塚公園の活用は、地域のかたが参加した成功事例として評価する。同様の事例が増えれば地域の活性化につながるため、進めていただきたい。 <p>3 シティプロモーションの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シティプロモーションは外部への発信とともに、市民と協働して発信することが重要である。 						
	<p>(2) 地域における医療・福祉の充実</p> <p>4 全世代交流の居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全世代の居場所づくりについては、課題解決型の組織横断的な取組となっており、職員の人材育成の観点からも検証を行うことが重要である。 						
	<p>(3) 安全・安心なまちづくりの推進</p> <p>5 防災・防犯の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防犯カメラは充足しているかどうかの判断は難しいが、市民に意見を聴き、効果的・効率的な設置に努めてほしい。ハード面と合わせ、地域による見守り等ソフト面についても、行政と地域とともに防犯に取り組まれない。 ・ 防犯に関する情報の効果的な発信に努められたい。 						

基本目標	<p>2 若い世代の子育ての希望をかなえる</p> <p>妊娠・出産期から切れ目のない子育て支援のため、子どもや子育て家庭の置かれた状況に応じて支援の充実を図るとともに、学校教育の充実を目指します。</p>						
数値目標	項目	H26	H27	H28	H29	H30	目標 (R1)
	若い世代(20～40代)の 幸福感(点)	7.1	-	-	7.2	-	8.0
	出生数(人)	783	725	669	694	598	783
	待機児童数(人)	131	128	109	139	165	0
外部評価意見	<p>(1) 妊娠・出産・子育ての支援</p> <hr/> <p>6 子育ての支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後児童健全育成事業における一部委託化について、保護者に対してより丁寧な説明に努められたい。 ワーク・ライフ・バランスといった広い視野で、民間企業や行政の子育てに関する意識を変えていく必要がある。 働いている保護者が学校運営に関わるためには、社会全体がワーク・ライフ・バランスを理解する土壌が必要である。 各事業の実施にあたっては、引き続き丁寧に保護者等と対話し、推進していただきたい。 <p>7 女性活躍の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 起業支援は順調に進捗しているが、働き方改革の面も含めて、国や民間企業等と連携して進めるべきである。 						
	<p>(2) 教育環境の充実</p> <hr/> <p>8 教育環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 食育事業については、引き続き各科目に取り入れて推進されたい。 図書館改修は、利便性が向上しつつ芦屋らしいデザインとなっており、また、運営面でも細やかな心遣いがされており、評価できる。 図書館本館から離れた地域から利用しづらいとの声がある。 対話などを通じて、PTAと学校の新しい関係を模索する必要がある。 英語学習について、カリキュラムの策定など、教科の方向性を定める必要がある。 						
外部評価意見	<p>その他 総合戦略の推進に関すること</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 成功事例を他の施策に波及させることが重要である。 子育て環境の整備について、女性活躍やワーク・ライフ・バランスなど、より広い視野を持って取り組まれない。 複数の分野にまたがり特定の部署だけでは解決が困難な課題については、組織横断的に対応しつつ、市民と共に考えていく必要がある。 						

重要業績評価指標〔KPI〕	1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する	H26	H27	H28	H29	H30	めざす値 (R1)	
	(1) 良質な住まい・住環境の形成							
	地域におけるまちなみなどの景観の美しさに関して「かなり良い」又は「やや良い」と回答した市民の割合(%)	84.7	-	-	84.5	-	90.0	
	芦屋市屋外広告物条例の規制内容に適合する屋外広告物の割合(%)	62.4 (見込数)	-	-	69	74.8	82.5	
	無電柱化率(%)	12.4	12.4	12.4	12.4	14.0	14.1	
	オープンガーデン参加者数(人/年)	81	107	121	127	133	125	
	市街地(奥池地区除く)緑被率(%)	22.0 (H17)	25.7	-	-	-	27.6	
	(2) 地域における医療・福祉の充実							
	紹介率(他の医療機関から市立芦屋病院に紹介された患者の割合)(%)	37.0	40.4	41.0	41.6	40.6	47.8	
	逆紹介率(市立芦屋病院から他の医療機関に紹介した患者の割合)(%)	64.9	63.9	55.1	76.9	79.6	69.2	
認定救急救命士の救急業務活動従事者数(人)	17	18	22	23	26	28		
シルバー人材センターの会員数(件/年)	1,004	1,054	1,092	1,109	1,121	1,254		
高齢者生活支援センターの新規相談者数(人/年)	1,201	1,087	1,196	975	1,083	1,264		
地域見まもりネット事業の加入事業者数(件/年)	63	132	139	126	138	94		
(3) 安全・安心なまちづくりの推進								
民間事業者との災害時における応援協定締結数(件)	20	22	26	34	45	37		
住宅の耐震化率(%)	93.3 (H25)	-	-	-	-	95.6		
個別避難支援計画策定数(件)	1,380	2,186	2,289	2,136	2,254	2,980		
消防団員数(人)	98	100	99	98	111	108		
街頭犯罪・侵入犯罪の認知件数(件/年)	445	406	392	334	290	266		
市が管理する街灯のLED化率(%)	7.7	17.4	30.9	38.1	49.7	37.4		

重要業績評価指標〔KPI〕	2 若い世代の子育ての希望をかなえる	H26	H27	H28	H29	H30	めざす値 (R1)	
	(1) 妊娠・出産・子育ての支援							
	待機児童数(人)	131	128	109	139	165	0	
	病児・病後児保育実施箇所数(か所)	1	1	1	1	1	2	
	放課後児童健全育成事業の待機児童数(人)	0	0	22	30	49	0	
	保健センターでの母子健康相談の人数(人/年)	2,598	2,189	2,631	3,024	3,529	2,720	
	子育てセンターにおける「つどいのひろば」などに参加する親子の数(人/年)	53,313	52,565	52,816	51,849	56,402	55,813	
	公立の全幼稚園での未就園児とその保護者に対する施設開放実施回数(回/年)	234	307	440	526	674	304	
	(2) 教育環境の充実							
	児童生徒一人あたりの学校図書館における図書貸出し冊数(冊/年)	小学校	59.7	63.5	67.3	79.6	85.0	64.2
中学校		14.6	15.3	18.2	22.7	23.6	16.7	
小学校の英語学習で、「これからも英語を使ってみよう」と答えた児童の割合(%)	92.1	92.2	94.0	92.2	90.4	92.1		
中学校の数学で、「授業がよくわかる」と答えた生徒の割合(%)	80.0	72.5	73.6	73.2	72.6	80.0		
通学路合同点検において確認された危険箇所(市が実施主体となる箇所のみ)の改善割合(%/年)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
あしやキッズスクエア、校庭開放、子ども教室の開催日数(日/年)	1,060	1,716	1,560	1,766	1,944	1,920		
将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合(%)	小学校	86.0	86.4	85.0	86.8	85.1	90.0	
	中学校	71.7	71.8	70.6	72.0	72.6	80.0	

芦屋市創生総合戦略の事業実施内容について

基本目標	主な取組	評価対象事業 (地方創生関連交付金を活用した取組や本市での特徴的な事業, プロジェクトチームによる企画立案などを選定)
1 安全・安心で良好な 住宅地としての 魅力を高め、継承する	(1) 良質な住まい・住環境の 形成	1 景観施策の推進 2 住宅都市の活性化 3 シティプロモーションの推進
	(2) 地域における医療・福祉 の充実	4 全世代交流の居場所づくり
	(3) 安全・安心なまちづくり の推進	5 防災・防犯の取組
	2 若い世代の子育ての 希望をかなえる	(1) 妊娠・出産・子育ての 支援
(2) 教育環境の充実		8 教育環境の充実

基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

(1) 良質な住まい・住環境の形成

事業	景観施策の推進			事業 No	1																				
目的	美しい景観により良質な住まい・住環境の形成を目指す。																								
実施内容	<p>公共サインの設置</p> <p>まちの回遊性向上及び優良な都市景観づくりに向け、「芦屋市公共サイン計画」に基づき、JR芦屋駅と阪神芦屋駅間を結ぶエリアをモデル地区と定めて、深い緑をメインカラーとする公共サインを設置した。 公共サインの設置費：6,156千円 （平成29年度～令和元年度の3年間で69基設置予定。 設置実績 平成29年度：4基、平成30年度：3基、合計7基設置済み）</p> <p>【課題】景観に配慮しつつ、まちの回遊性を向上させるサインの配置。 【方向性】モデル地区に公共サインを設置し、道路上のサインの統一化を図る。</p> <div data-bbox="1675 416 1989 707" data-label="Image"> </div> <p>屋外広告物条例の推進</p> <p>芦屋市屋外広告物条例の基準に適合しない屋外広告物を掲出している広告主に対して、文書や個別訪問等により条例内容の周知を行い、平成29年7月現在で818件であった市条例不適合の物件が平成30年10月現在で716件に減少した。 （補助制度申請件数 平成28年度：7件、平成29年度：39件、平成30年度：93件）</p> <table border="1" data-bbox="1294 874 2101 1018"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">令和元年6月30日までに補助事業を完了させるもの</th> <th colspan="2">令和3年6月30日までに補助事業を完了させるもの</th> </tr> <tr> <th></th> <th>補助率</th> <th>限度額</th> <th>補助率</th> <th>限度額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>改修費用</td> <td>2分の1</td> <td>200万円</td> <td>3分の1</td> <td>50万円</td> </tr> <tr> <td>撤去費用</td> <td>3分の2</td> <td>200万円</td> <td>2分の1</td> <td>50万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】屋外広告物所有者等の条例への理解、協力が必要である。 【方向性】基準に適合しない屋外広告物の早期改修、撤去を促進するため、補助制度の周知を行うとともに、イラストを用いて具体的な例を示しているガイドラインなどを活用しながらより丁寧な説明を行い、理解を得よう努める。</p>						令和元年6月30日までに補助事業を完了させるもの		令和3年6月30日までに補助事業を完了させるもの			補助率	限度額	補助率	限度額	改修費用	2分の1	200万円	3分の1	50万円	撤去費用	3分の2	200万円	2分の1	50万円
	令和元年6月30日までに補助事業を完了させるもの		令和3年6月30日までに補助事業を完了させるもの																						
	補助率	限度額	補助率	限度額																					
改修費用	2分の1	200万円	3分の1	50万円																					
撤去費用	3分の2	200万円	2分の1	50万円																					

実施内容

無電柱化事業の推進

都市防災機能の強化，通行空間の安全性・快適性の向上，良好な都市景観の形成を目的とし，芦屋市無電柱化推進条例を制定し，整備を優先する路線を示した芦屋市無電柱化推進計画を策定した。

また，さくら参道における電線共同溝整備工事を引き続き実施した。(無電柱化率 14.0%)
無電柱化の工事費：365,985 千円

【課題】無電柱化事業における関係機関及び沿道住民との丁寧な協議が必要であることや事業費が高額であること。

【方向性】無電柱化事業の実施やコスト削減に向けて，実施手法を定める。



〔無電柱化前〕



〔無電柱化後(イメージ)〕

景観重要建造物の指定

魅力ある都市景観の形成のため，景観法の規定に基づき，平成 30 年 10 月 10 日に芦屋市初となる景観重要建造物として，芦屋仏教会館及びカトリック芦屋教会を指定した。

【課題】景観重要建造物の指定により，所有者の適正な管理義務等が生じるため，特に個人住宅等の指定には，所有者の理解，協力が必要となる。

【方向性】景観上重要な建造物を保全するとともに，景観意識の高揚を図る。

芦屋仏教会館 (昭和 2 年竣工)



近代建築に東洋風・印度風の細部意匠を取り入れたデザインで，ベージュの外壁と緑豊かな外構は芦屋川の景観とよく調和している。阪神・淡路大震災後には，建築物と一体となった前庭を保存するため，曳家工法による移築が行われた経緯もある。竣工から 90 年を経過しており，歴史的にも価値のある建造物である。
※ 国登録有形文化財

カトリック芦屋教会 (昭和 31 年竣工)



鐘楼が収められた高い尖塔、正面のステンドグラス及び入口に続く大階段が印象的な阪神間モダニズムを代表するゴシック風建築であり、落ち着いた佇まいは芦屋川沿岸の景観とよく調和している。芦屋川のランドマークとして古くから市民に親しまれている建造物である。

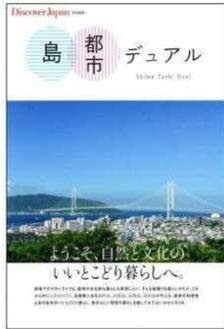
基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

(1) 良質な住まい・住環境の形成

事業	住宅都市の活性化		事業 No	2
目的	住宅都市としての魅力を一層高める			
実施内容	<p>宮塚公園の活用</p> <p>平成 30 年 4 月に宮塚公園のリニューアルオープンイベントを開催（約 500 名参加）。宮塚公園のリニューアルコンセプトに基づく公園内での飲食や物販といったブース出店など、今までにないサービス提供による公園利用者の満足度向上に向け、周辺自治会や、その他任意団体、店舗等、出店やイベントを行う団体、また利用者や有識者に意見を聞き、ニーズの把握とともに今後の方向性を協議した。イベントの開催を通じて、公園管理者及び地域住民の立場から必要な開催条件の模索も行った。</p> <p>【課題】 イベントを開催する担い手の発掘。 【方向性】 社会実験として事業を行いながら、月 1 回程度のイベント開催を目指し、公園管理者・出店者ともに継続性のある事業を展開する。</p>			
	<p>市民活動センターの改修</p> <p>男女共同参画センターウィザス芦屋の移転に伴い、交流を促進する場を実現し、市民活動の活性化を図るため、あしや市民活動センターを改修した。改修に当たっては、今後の利用者層を想定した方々を対象に、「芦屋まちデザインラボ」としてワークショップを開催し、そこで出た今後の活動に関する意見等を踏まえ、改修設計に反映した。具体例としてオープンスペースにキッチンを設置したほか、印刷機器類の充実を図った。</p> <p>公光分庁舎北館 1 階の改修に向けたワークショップ企画・運営及び設計・施工委託費：15,000 千円</p> <p>【課題】 自立的な市民活動の活性化，行政の役割の見直し 【方向性】 社会環境の変化に伴い、より一層自主的かつ自立的に社会課題の解決に向けて活動する市民や団体が重要となる中、市民参画・協働に必要な人材の発掘・育成に向けた活動に取り組む。</p>	<p>公光分庁舎北館（あしや市民活動センター）</p>   <p>1F オープンスペース</p>	<p>改修前</p>  <p>改修後</p>   <p>1F 印刷室</p>	

基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

(1) 良質な住まい・住環境の形成

事業	シティプロモーションの推進		事業 No	3																				
目的	本市の魅力を各施策のターゲット層に効果的に発信することで流入人口の増加を目指す。																							
実施内容	<p>シティプロモーション事業</p> <p>◆「モダニズム」&「ネイチャー」による2市1島プロモーション事業 地方創生推進交付金対象事業（交付金12,023千円）</p> <p>「島&都市デュアル」事業</p> <p>プロモーション事業負担金：19,886千円</p> <p>神戸市、洲本市、淡路市と連携し、「都市の文化と島の豊かさが両立できるライフスタイル」を前年度に引き続き各市の市民で構成された暮らしナビゲーター（35人）が中心となり、旅の企画（22本の企画、延べ207人参加）やレポート記事の発信（111本の記事）をWEBサイトやSNSを通じて行った。</p> <p>また、首都圏における認知拡大を重視しつつ、各種イベント施策等を通して4市内外の交流人口の増加を目的に事業を実施した。</p> <p>(各種イベント施策)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">時期</th> <th style="width: 20%;">イベント</th> <th style="width: 40%;">内容</th> <th style="width: 20%;">参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月25日(月)～7月1日(日)</td> <td>新宿ポスタージャック</td> <td>新宿駅イベントスペース内でのプロモーション</td> <td>約5,000人</td> </tr> <tr> <td>7月6日(土)</td> <td>デュアルライフフェス</td> <td>渋谷キャストガーデン内でのイベント</td> <td>約1,000人</td> </tr> <tr> <td>9月17日(月)～11月3日(土) (東京3回、大阪3回)</td> <td>デュアルライフスクール</td> <td>「教育」「スタートアップ」「こだわりモノづくり」をテーマとして4市の市民を講師としたスクールイベント</td> <td>合計208人</td> </tr> <tr> <td>12月1日(土)、2日(日)</td> <td>スペシャル体験モニターツアー</td> <td>3コースに分かれた1泊2日のツアーイベント</td> <td>合計24人</td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div> <p>3年間の効果検証として実施した移住意向者に対するウェブアンケートにおいて、プロモーション認知率としては、29.6%と、移住意向者のおよそ3人に1人が知るプロモーションとなった。</p> <p>事業は平成30年度までとなるが、令和元年度以降はナビゲーター（各市のリーダーを含む6名）が「島&都市デュアル」のブランドを継承していくこととなった。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;">  </div>				時期	イベント	内容	参加者数	6月25日(月)～7月1日(日)	新宿ポスタージャック	新宿駅イベントスペース内でのプロモーション	約5,000人	7月6日(土)	デュアルライフフェス	渋谷キャストガーデン内でのイベント	約1,000人	9月17日(月)～11月3日(土) (東京3回、大阪3回)	デュアルライフスクール	「教育」「スタートアップ」「こだわりモノづくり」をテーマとして4市の市民を講師としたスクールイベント	合計208人	12月1日(土)、2日(日)	スペシャル体験モニターツアー	3コースに分かれた1泊2日のツアーイベント	合計24人
時期	イベント	内容	参加者数																					
6月25日(月)～7月1日(日)	新宿ポスタージャック	新宿駅イベントスペース内でのプロモーション	約5,000人																					
7月6日(土)	デュアルライフフェス	渋谷キャストガーデン内でのイベント	約1,000人																					
9月17日(月)～11月3日(土) (東京3回、大阪3回)	デュアルライフスクール	「教育」「スタートアップ」「こだわりモノづくり」をテーマとして4市の市民を講師としたスクールイベント	合計208人																					
12月1日(土)、2日(日)	スペシャル体験モニターツアー	3コースに分かれた1泊2日のツアーイベント	合計24人																					

(275)

実施内容

◆首都圏における移住促進事業

業務委託費：800 千円

二子玉川蔦屋家電にて芦屋市商工会や市内の2事業者とともに、事業者の商品販売等に集まった顧客に対して、PR動画や芦屋本、給食レシピ本、インスタグラム投稿等による写真の展示を通じて芦屋市の魅力・住みやすさの認知度向上を図るため魅力発信を行った。20代～40代の子育て世代の来場者が多く、移住・定住のターゲット層へ本市のPRができた。

また、事業者の商品も多くのかたが購入され、“メイドイン芦屋”商品の質の高さをPRすることができた。

首都圏在住者に対して芦屋市への高級感だけではない好意的なイメージが醸成できた。



◆芦屋市シティプロモーション事業

プロモーション事業委託費：9,018 千円

市民のシビックプライドの醸成及び本市の住みやすさの認知度向上を目的に以下の事業を実施した。

- ・書籍「芦屋～あしやを歩く本～」(「芦屋」制作委員会著、平成30年、コミニク出版)の出版

新聞・テレビ等にも取り上げられ、本市の認知度向上及び魅力発信に大きく寄与することができた。

- ・「あしやを歩く スタンプラリー」の実施

書籍の出版と関連して、書籍に掲載されている店舗を中心に市内の回遊性を高めるため、スタンプラリーを実施した。スタンプラリー協力店舗でスタンプを3つ集めた応募者に抽選で賞品を発送した。

実施日	スタンプラリー参加店舗	応募実績
平成30年7月1日～平成30年8月31日	79店舗	123件
平成30年9月1日～平成30年10月31日	82店舗	241件
平成30年11月1日～平成30年12月31日	82店舗	424件



- ・芦屋市シティプロモーション応援者募集：登録者にイベント情報等を16回発信した。登録者数は、407名。
- ・インスタグラム：「ASHIYA PHOTO キャンペーン」と題してインスタグラムで写真を募集し、選考後、広報あしや12月15日号の1面に当選写真を掲載した。
- ・PR動画「Sound of ASHIYA」：平成31年3月末時点で再生回数14,500回を超え、イベントやセミナー、職員採用説明会などで放映するなどし、視覚的に市の魅力発信として活用した。
- ・親子で楽しむ芦屋クラシックコンサート：芦屋市立美術館にてクラシックコンサート及び本の読み聞かせ会を実施。定員150名に対して563名の応募。

実施内容

◆阪神間連携ブランド発信事業

事業費：880 千円

神戸市、西宮市、阪神電気鉄道と連携し「阪神間モダニズム」によって醸成されたこの地域特有の文化を、地域の魅力として発信することを目的に、Instagramキャンペーン「感じる阪神KAN」及び各市での関連イベントを実施。

- ・Instagramの投稿数 1,475 件 フォロワー数 207 人。
 - ・芦屋市での関連イベントとして、「芦屋仏教会館でお茶会&音楽会」を開催。イベント参加 29 名。
 - ・神戸市、西宮市と 3 市合同イベントとして、「冬の音楽祭」を神戸市東灘区で開催。イベント参加約 1,200 名。本市から甲南高校ブラスアンサンブル部と飲食店 1 社、洋菓子店 1 社が参加。
- また、「阪神間モダニズム」に関連したスタンプラリーを当日実施し、270 名が参加。

【課題】 イベント等、市内で実施されている事業の総合的な情報の発信。シティプロモーション事業における市民への巻き込み手法。

【方向性】 首都圏においては、市内事業者と連携しイベントを実施することで、本市の利便性・住みやすさの認知度向上を図る。市内でのイベントや「あしやを歩く本 芦屋」等のコンテンツを活用し、市民のシビックプライドの醸成を行う。SNS 等を通じて情報提供を行うことで市外から本市を訪れる機会の増加を目指す。



基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

(2) 地域における医療・福祉の充実

事業	全世代交流の居場所づくり		事業 No	4																																	
目的	全世代が交流し、地域の課題を地域で解決する仕組みを推進する。																																				
実施内容	<p>全世代の居場所づくり</p> <p>全世代が住みよいまちづくりに向け、平成 30 年度に「健康増進・全世代交流に向けたプロジェクト・チーム」（17 課 22 名で構成）を設置し、民間企業等の多様な主体との協議の場である「こえる場！（39 団体）」の活動を継続。企業・団体等より提案のあったテーマごとに課題解決に向けた活動に取り組み、活動の中で生まれたアイデアを実現する取組の一つとして、各テーマに沿ったイベントを開催した。</p> <p>参加職員にとっても、通常業務では関わらない主体と協働することで刺激を受け、人材育成にも資するものとなった。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>グループ</th> <th>活動テーマ</th> <th>イベント名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食</td> <td>「食」を通じて高齢者と多世代の交流を図る</td> <td>ふらっとキッチン～ローリングストックでおしゃれレシピ～</td> <td>40 名</td> </tr> <tr> <td>子育て支援</td> <td>親支援で子育てが楽しくなるような取組</td> <td>のびのびルーム「ここにこ」</td> <td>25 名</td> </tr> <tr> <td>多世代共助</td> <td>自治会や大学と連携した地域づくり</td> <td>ひなまつり</td> <td>58 名</td> </tr> <tr> <td>人生を豊かにする学び</td> <td>学びを通じて芦屋に住んで良かったと思える取組</td> <td>芦屋まなび場！フェスティバル in 芦屋大学</td> <td>約 450 名</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>情報発信や連携の方法について</td> <td>潮芦屋ふれあい秋祭りにてキャラクターによる交通安全〇×クイズ実施</td> <td>約 70 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課 題】市民との協働の推進、「こえる場！」が継続できる仕組みを検討する必要がある。</p> <p>【方向性】「こえる場！」を、課題解決につながるよう仕組み化し、企画を行う。</p> <p>ひとり一役活動の実施</p> <p>平成 29 年度より介護保険施設や高齢者の居宅等において、ボランティア活動を行う方を「ひとり一役ワーカー」として登録し、活動によってポイントを付与する制度であるひとり一役活動を実施している。</p> <p>業務委託費：7,218 千円</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ひとり一役ワーカー</td> <td>123 名</td> <td>139 名</td> </tr> <tr> <td>受入施設</td> <td>24 施設</td> <td>26 施設</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課 題】65 歳未満の登録が少ないため、周知・啓発が必要である。</p> <p>施設等での活動が多く、個人宅での活動についてもニーズを把握していく必要がある。</p> <p>【方向性】制度の周知等により、65 歳未満の活動者、担い手を増やしていく。また、実施したアンケートに基づき、関係機関への周知・啓発を図り、個人宅での活動ニーズの把握に努める。</p>				グループ	活動テーマ	イベント名	参加人数	食	「食」を通じて高齢者と多世代の交流を図る	ふらっとキッチン～ローリングストックでおしゃれレシピ～	40 名	子育て支援	親支援で子育てが楽しくなるような取組	のびのびルーム「ここにこ」	25 名	多世代共助	自治会や大学と連携した地域づくり	ひなまつり	58 名	人生を豊かにする学び	学びを通じて芦屋に住んで良かったと思える取組	芦屋まなび場！フェスティバル in 芦屋大学	約 450 名	その他	情報発信や連携の方法について	潮芦屋ふれあい秋祭りにてキャラクターによる交通安全〇×クイズ実施	約 70 名	実績	平成 29 年度	平成 30 年度	ひとり一役ワーカー	123 名	139 名	受入施設	24 施設	26 施設
グループ	活動テーマ	イベント名	参加人数																																		
食	「食」を通じて高齢者と多世代の交流を図る	ふらっとキッチン～ローリングストックでおしゃれレシピ～	40 名																																		
子育て支援	親支援で子育てが楽しくなるような取組	のびのびルーム「ここにこ」	25 名																																		
多世代共助	自治会や大学と連携した地域づくり	ひなまつり	58 名																																		
人生を豊かにする学び	学びを通じて芦屋に住んで良かったと思える取組	芦屋まなび場！フェスティバル in 芦屋大学	約 450 名																																		
その他	情報発信や連携の方法について	潮芦屋ふれあい秋祭りにてキャラクターによる交通安全〇×クイズ実施	約 70 名																																		
実績	平成 29 年度	平成 30 年度																																			
ひとり一役ワーカー	123 名	139 名																																			
受入施設	24 施設	26 施設																																			



基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

(3) 安全・安心なまちづくりの推進

事業	防災・防犯の取組	事業 No	5												
目的	防災力・防犯力を高め、安全・安心なまちづくりを推進する。														
実施内容	<p>防犯カメラの設置</p> <p>犯罪の抑止を目的とし、通学路を中心に他の施策（街灯を明るくする・樹木を剪定するなど）を講じてもお不安感がぬぐえず、事案が複数回発生し得る様な箇所を芦屋警察や地域との協議により選定し、優先的に防犯カメラの設置をする。平成 30 年度実施した小学校区ごとの意見交換会の意見を反映させ、防犯カメラを設置した。防犯カメラ設置費：12,545 千円</p> <table border="1" data-bbox="1422 411 2116 571"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規設置台数</td> <td>80</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>設置総台数</td> <td>80</td> <td>100</td> <td>120</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】防犯カメラの有効性について、確認し、今後の配置について検討する。</p> <p>【方向性】防犯については、引き続き芦屋警察やまちづくり防犯グループ等関係機関と連携し犯罪抑止に努める。</p> <p>防犯カメラについては、通学路合点検などの機会を捉え、設置した防犯カメラの有効性についての意見を聴き、今後の設置に反映させる。</p> <p>また、補助金制度の活用により地域での防犯カメラ設置を推進する。</p> <p>土砂災害特別警戒区域等への対策</p> <p>兵庫県が実施する急傾斜地崩壊対策事業の推進に向けて説明会等を実施し、自治会からの依頼書及び地権者からの同意書を取りまとめて県に提出した。その結果、朝日ヶ丘町及び奥池町において、令和元年度からの兵庫県による対策工事に伴う現地調査等の実施につながった。</p> <p>また、建物の移転及び改修の補助金に関する制度（平成 29 年度開始）の周知を図った。</p> <p>土砂災害特別警戒区域に指定された市有地及び打出芦屋財産区共有地については、対策工事設計のための地質調査を実施した。</p> <p>【課題】県の急傾斜地崩壊対策事業の推進に向けた調整が必要である。</p> <p>【方向性】土砂災害特別警戒区域に指定された市有地及び打出芦屋財産区共有地に対して、対策工事を実施する。</p> <p>その他の区域については、急傾斜地崩壊対策事業の実施に向け、県に要望するとともに、地元自治会等への説明を行う。</p> <p>また、防災情報マップ等による指定区域の周知及び災害発生時の早期避難の啓発を行う。</p>				平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	新規設置台数	80	20	20	設置総台数	80	100	120
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度												
新規設置台数	80	20	20												
設置総台数	80	100	120												

基本目標 2 若い世代の子育ての希望をかなえる

(1) 妊娠・出産・子育ての支援

事業	子育ての支援			事業 No	6																											
目的	子育てしやすいまちづくりに向け、子育て世代の希望をかなえる施策を推進する。																															
実施内容	<p>あしやキッズスクエア事業の充実</p> <p>市内全 8 小学校において、多様な主体と連携し、年間を通して事業実施に至った。 (平成 30 年度登録児童数：2,288 名、児童登録率：50.6%) 事業費：33,661 千円</p> <p>【課題】安定的にあしやキッズスクエアを実施するための場所を確保する。 私立小学校に通う児童へ周知する。</p> <p>【方向性】企業・NPO・高校・大学等との連携により、一層魅力的なプログラムを実施し、参加を促進する。 トータルコーディネーター 1 名を配置し、各小学校やマネージャーとの連携を図る。 今後も各校ごとの運営会議の開催など、地域との連携を深め持続可能性をさらに高めていく。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">連携先</td> <td>総数</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>事業者</td> <td>5</td> <td>9</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>教育機関</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>その他(個人等)</td> <td>47</td> <td>43</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td colspan="2">プログラム数</td> <td>522</td> <td>780</td> <td>866</td> </tr> </tbody> </table>			実績		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	連携先	総数	56	56	61	事業者	5	9	19	教育機関	4	4	4	その他(個人等)	47	43	38	プログラム数		522	780	866
実績		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度																												
連携先	総数	56	56	61																												
	事業者	5	9	19																												
	教育機関	4	4	4																												
	その他(個人等)	47	43	38																												
プログラム数		522	780	866																												
<p>放課後児童健全育成（学童保育）事業における待機児童解消に向けた取組</p> <p>全 8 小学校区において放課後児童健全育成事業を実施しているが、待機児童が生じているため、朝日ヶ丘幼稚園において、民間事業者の運営により山手圏域（3 小学校区）の待機児童を対象に事業を実施した。夏休み期間中は、全市域の待機児童を受け入れた。（開所日数 240 日、出席児童数延 1,313 名） 委託費：16,640 千円</p> <p>【課題】民間事業者の市内での運営状況を検証し、安定的で持続可能な運営のための方策を検討する。 キッズスクエア事業と放課後児童健全育成事業との連携を推進する。</p> <p>【方向性】学校内の運営を基本としながら、拠点校方式も取り入れることにより待機児童ゼロを目指す。</p>																																

就学前児童の待機児童解消に向けた取組

「市立幼稚園・保育所のあり方」に基づき次の取組を進めた。

- ◆分庁舎内小規模保育事業所の開園（平成31年1月開園）
- ◆旧ハートフル福祉公社敷地での認可保育所及び朝日ヶ丘幼稚園敷地における認定こども園の設置運営事業者を公募・決定
- ◆旧精道幼稚園敷地における市立精道こども園の開園準備（平成31年4月開園）
- ◆旧精道保育所敷地における市立精道こども園及び（仮称）市立西蔵認定こども園の設計（令和3年4月開園予定）

【課題】変化するニーズを施策へ反映する。

【方向性】「市立幼稚園・保育所のあり方」を着実に進め、待機児童ゼロを目指す。

実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度
入所定員	1,211	1,271	1,369
待機児童数	109	139	163

基本目標 2 若い世代の子育ての希望をかなえる

(1) 妊娠・出産・子育ての支援

事業	女性活躍の推進		事業 No	7																					
目的	女性が様々な場面で、その能力や個性を発揮し、活躍できる社会の実現に向け、施策を推進する。																								
実施内容	<p data-bbox="322 384 1509 416">「女性が輝くまち 芦屋」プロジェクトの実施 地方創生推進交付金対象事業（交付金 17,096 千円）</p> <p data-bbox="322 437 1525 501">子育て世代も含めた女性の活躍を促すため、「女性が輝くまち 芦屋」の実現を目指した「ASHIYA RESUME 事業」及び女性の起業支援のための「旧宮塚町住宅活用事業」を開始し、以下の取組を行った。</p> <div data-bbox="1563 459 2092 533" style="text-align: right;">  ASHIYA RESUME <small>芦屋リジューム</small> </div> <table border="1" data-bbox="1218 571 2056 975" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>イベント名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交流の場づくり</td> <td>ASHIYA RESUME salon</td> <td>26 名</td> </tr> <tr> <td>実践的な個別支援</td> <td>ASHIYA RESUME school</td> <td>延べ 68 名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">活躍の場の提供</td> <td>ASHIYA RESUME seminar</td> <td>延べ 20 名</td> </tr> <tr> <td>ASHIYA RESUME market</td> <td>約 350 名</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">協力者（協力店舗・事業者）の募集</td> <td>ASHIYA RESUME meeting</td> <td>72 名</td> </tr> <tr> <td>ASHIYA RESUME matching</td> <td>10 名</td> </tr> <tr> <td>ASHIYA RESUME workers spot</td> <td>9 名</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="322 533 600 564">◆ 「ASHIYA RESUME 事業」</p> <ul data-bbox="322 592 1077 767" style="list-style-type: none"> ・プロモーション イベント告知や女性活躍に関する情報提供のため、ホームページを随時更新した。 また、プロジェクト周知のため、リーフレットを作成し、市内公共施設に配架した。 ・プロジェクトへの参加希望者の登録促進 プロジェクトへの参加希望者として、就業・起業希望者 143 名の登録を得た。 <p data-bbox="322 1002 629 1034">◆ 「旧宮塚町住宅活用事業」</p> <p data-bbox="344 1038 1921 1107">市営住宅であった旧宮塚町住宅の 1 階部分を改修し、女性の活躍支援や地域活性化の拠点となるよう、入居者を募集し、4 戸の入居者を決定した。 委託費等：37,631 千円</p> <p data-bbox="344 1161 2085 1225">【課題】「ASHIYA RESUME 事業」プロジェクトの認知度及び興味関心を高め、登録・協力者を増やすこと並びに起業・再就労などにつながる実践的な支援を行う。 また、地方創生推進交付金事業として令和元年度で終了するため、交付金終了後の自走に向けた検討が必要である。</p> <p data-bbox="456 1230 1317 1262">「旧宮塚町住宅活用事業」北側敷地を含めた全体的な活用方法の検討が必要である。</p> <p data-bbox="344 1267 2123 1331">【方向性】「ASHIYA RESUME 事業」アンケート調査等から起業への意識が高いことが芦屋市の特徴であることから、引き続き事業を実施するとともに、関係各課・事業者等が連携して女性の起業・就労支援等に関する事業を行う。</p> <p data-bbox="456 1337 2107 1401">「旧宮塚町住宅活用事業」2 階部分の改修・入居者募集を行うとともに、北側敷地を含めた旧宮塚町住宅の運営管理業務を提案方式で実施し、業者の決定後、施設等の管理だけではなく、オープニングイベントなどを開催し、女性の活躍支援や地域活性化につながる取組を行う。</p>				テーマ	イベント名	参加人数	交流の場づくり	ASHIYA RESUME salon	26 名	実践的な個別支援	ASHIYA RESUME school	延べ 68 名	活躍の場の提供	ASHIYA RESUME seminar	延べ 20 名	ASHIYA RESUME market	約 350 名	協力者（協力店舗・事業者）の募集	ASHIYA RESUME meeting	72 名	ASHIYA RESUME matching	10 名	ASHIYA RESUME workers spot	9 名
テーマ	イベント名	参加人数																							
交流の場づくり	ASHIYA RESUME salon	26 名																							
実践的な個別支援	ASHIYA RESUME school	延べ 68 名																							
活躍の場の提供	ASHIYA RESUME seminar	延べ 20 名																							
	ASHIYA RESUME market	約 350 名																							
協力者（協力店舗・事業者）の募集	ASHIYA RESUME meeting	72 名																							
	ASHIYA RESUME matching	10 名																							
	ASHIYA RESUME workers spot	9 名																							

基本目標 2 若い世代の子育ての希望をかなえる

(2) 教育環境の充実

事業	教育環境の充実		事業 No	8
目的	特色ある教育を行い、教育環境の一層の充実を図る。			
実施内容	<p>食育の取組</p> <p>給食で使う材料の仕込みのお手伝い等、年間を通じて多くの食育活動を行う他、小学校6年生を対象とした市内有名シェフによる「味覚の授業」や給食室との「コラボ給食」を実施した。</p> <p>学校給食の更なる魅力発信のため、平成29年度にcookpadに開設した「芦屋の学校給食」のページで栄養価にも考慮した学校給食のレシピを紹介した。(平成30年度 14回)</p> <p>保護者向けに市内の有名シェフと学校栄養士による「学校給食レシピ集を活用した料理セミナー」を実施した。(2回、参加者のべ56名)</p> <p>【課題】安全安心な学校給食を基盤に、地産地消をいかした食育にどのように取り組んでいくか。</p> <p>【方向性】学校給食展をはじめ、食育事業を通して食育推進を図る。また、精道中学校での給食を令和2年度中に開始(全中学校での自校調理方式による実施完了)。</p> <p>読書のまちを推進する取組</p> <p>「教育施策推進に向けたプロジェクト・チーム」を設置し、学校図書館と市立図書館の連携を図り、図書館職員が講師となって「絵本から読み物への移行期におけるお勧めの本の紹介」と題した研修会を開催した。</p> <p>図書館職員が小学校に出向き、ブックトークを行った。</p> <p>平成29年度に引き続き、図書館、美術博物館、谷崎潤一郎記念館の連携により、屋外で読書を楽しむイベント「niwa-doku」を実施した。(1回、参加者657人)</p> <p>【課題】市立図書館と学校図書館との連携を図る。</p> <p>【方向性】引き続き関係機関との連携を深め、市立図書館・学校図書館等の読書環境の整備を進める。</p> <p>英語教育の推進</p> <p>平成30年度より、小学校の全学年に対して英語教育を実施した。</p> <p>授業には、英語が堪能な地域人材や外国人指導助手(ALT)を配置し、教員と協働して指導を行った。</p> <p>また、教員の指導力向上のために、授業におけるチームティーチングの研修と、クラスルームイングリッシュなど英会話の研修を行った。</p> <p>【課題】児童生徒の英語でのアウトプット活動(自身の考えなどを表現すること)に対する指導・支援を行う。</p> <p>【方向性】就学前から中学校まで、系統的に英語教育を実施する。</p>			

